

## TOPICS

### 01 「攻めの『ITインフラ投資削減』戦略セミナー」を開催

当社は11月27日、大阪にて「攻めの『ITインフラ投資削減』戦略セミナー」と題したセミナーを開催しました。これは、厳しい経営環境にあってコスト削減が叫ばれる現在、全IT投資に対し約70%を占めるといわれるシステム運用費用をいかに削減するか、そのヒントを中心に紹介するもので、企業の経営幹部、情報システム担当者の皆さまを中心に多数のお客さまにご来場いただきました。当日は、「仮想化」を切り口に「Dell™ PAN System」や「Egenera® BladeFrame®」など、効率化・コスト削減に有効として注目されているシステムの紹介に加え、これら製品のパナソニック電工グループにおける活用事例などをご紹介し、盛況のうちに終了しました。



### 02 「SaaS World/Tokyo 2009」で講演

当社は12月8、9日に東京で行われた「SaaS World/Tokyo 2009」で講演を行いました。これは国内最大級のSaaS・クラウドコンピューティング専門イベントで、昨今SaaSやクラウド・コンピューティングによる合理化・効率化を進めようとする企業の注目を集めています。当社は今回、2日目に「クラウドと社内システム連携をESBでシームレスに、短期間・安価に実現!」と題した講演を実施しました。このなかでは、ASTERIA+GoogleAppsアダプタ、Salesforce CRMアダプタ、FAXアダプタなど、当社の提供するクラウド対応アダプタを活用し、自社システムとのシームレスかつリアルタイムの連携および効率的なメンテナンスを実現した事例などについて紹介、定員を超える参加者がつめかける盛況となりました。



講演する  
東日本ソリューション営業部  
大久保 正顕

### 03 個人投資家向け説明会を開催

当社は12月18日に福岡で個人投資家向け説明会を開催しました。大阪・東京以外での個人投資家向け説明会は今回が初めての試みです。今回の説明会では、当社の強みである「現場力」を活かした事業展開とその実例などをはじめ、今期の業績などについての説明を行いました。当日は、寒波の襲来により福岡では雪がちらつきましたが、会場には多くの個人投資家の皆さまが来場され、当社の説明に熱心に耳を傾けておられる姿が目立ちました。当社では今後とも、国内各地での説明会実施など、個人投資家向けIR活動を一層強化していきます。



### あいえす☆人物伝 その5 本郷 奈保



連載5回目にして女性社員が初登場。開発センターの入社3年目・本郷奈保です。開発センターの業務は、お客さまと事業部との間でシステムの仕様がだまかに決まってきた後の詳細設計と開発。「プログラミング前にありとあらゆることを想定しておかなくてはならないので、ラフスケッチや設計図の作成などからはじまり、地道な作業がとて多いですね」と笑います。システムが正常に稼動するためには、ユーザーインターフェースからは見えない奥深い部分に至るまでひとつひとつ設定が必要。そのため、事業部との綿密な打合せを繰り返し、詳細設計を決めるのだそうです。そんな彼女は開発センター所属社員に必須である基本情報技術者試験に昨秋合格。「週1回のグループミーティングの場を活用し、10数名が問題を持ち回りを出し合いながら勉強会を続けてきた成果です」とにこやか。今後の目標は「たとえたとえ、今はお客さまと直接お話しする機会がありませんが、将来的にはお客さまの生の声を直接うかがう機会が増え、それを開発に活かすことができれば」と答えてくれました。

### 編集後記

以前「捨てること」「整理整頓」の重要性を説いた本がベストセラーになりました。業務の効率化から運気向上まで、さまざまな効果があげられていましたが、要は余計なものを省けば無駄な体力(運も?)を奪われないということだと思います。今回の特集からも整理整頓の効果を感じていただければ幸いです。

### 発行元

パナソニック電工インフォメーションシステムズ株式会社  
総務部 広報・IRグループ

〒530-0013 大阪市北区茶屋町19-19 アプローズタワー16F  
TEL 06-6377-0100 FAX 06-6377-0833 <http://panasonic-denkois.co.jp/>

※本紙掲載記事の無断転載・複製を禁じます。  
※本紙に記載された社名および商品名などは、それぞれ各社の商標または登録商標です。



## Top INTERVIEW

### 2010年、「5S」でICTのメタボ撃退。

景気回復への期待と二番底リスクへの不安が交錯するなかで新しい1年が始まりました。企業の設備投資は今年も抑制傾向と見られており、新規システム開発投資にも厳しい目が注がれることになりそうです。一方、昨年初頭に予測したとおり、合理化・効率化に資するIT投資や既存システムの最大限の使いこなし、そして、SaaSやクラウドコンピューティングなどを活用した持たざる経営へのシフトに対するニーズは昨年から今年にかけて、かつてない高まりをみせています。

昨年来、私はさまざまな場面で「ICT構造改革」が起こる可能性について述べてきましたが、今年はこの動きが目に見えて活発化すると予測しています。なぜなら、従来「IT投資抑制」という言葉が指していたシステム開発は企業のIT投資の3割ほどしか占めておらず、残りの7~8割はシステム運用にかかっているからです。景気の不透明感が続くなかで費用を抑制するならば、今後システム運用にかかる費用をどう抑えるかが最大のポイントです。

ICT構造改革はこれまで必要と信じ増強を続けるうち、知らず知らずメタボ化したシステムを筋肉質にする試みです。ぜい肉=ムダをそぎ落とせば、運動能力もアップします。そのためキーワードは「5S」です。みなさまもご承知のとおり、5Sは製造業・サービス業における職場環境改善活動の用語ですが、ICTの構造改革にも不可欠な視点です。

今回特集したネットワーク配線の改善事例は、「整理(ととのえること)」「整頓(置き場所を決めること)」「清掃(よごれをとること)」「清潔(よごれのない状態を維持すること)」「しつけ(ルールを守ること)」という、5Sの取り組みそのものです。私たちは、

ごみ化したシステムや配線を掃除し、整理整頓のルールを決め、清潔を保つに至るまでの過程において、自ら知恵を絞り、汗を流してノウハウを積み上げてきました。

こうした経験から私たちは、ICT構造改革は見えるところから始めても十分効果が出るものの、「やめる、とめる」からスタートしなければムダな苦労が増えるばかりで効き目がわからない、と自信を持って言えます。こうしたことは、ものづくりに知見を持ち、実際の体験をベースにご提案できる私たちにしか言えません。

ICT構造改革は、極めてシンプルな取り組みを結集したもので、特別・特殊なことは一切不要です。逆に派手さや華やかさのない地道な取り組みですが、体質強化に特効薬はありません。

経営環境の厳しい今を絶好の機会とし5Sに取り組まれるみなさまに、私たちは最大限の役立ちを提供させていただきたいと考えています。



パナソニック電工インフォメーションシステムズ株式会社  
取締役社長 河村 雄良  
Takeyoshi Kawamura



# Close Up Now

## ネットワークジャングルからの脱出!

～パナソニック電工ISの1000日間～

企業のIT化がすっかり浸透した現在、データセンターを抱える企業のみならず、多くの企業にとって頭の痛い問題…それはシステムや機器をつなぎ、稼働させるためになくてはならない「ネットワークケーブル」の配線ではないでしょうか。サーバ・ストレージの何倍もの勢いで増加してしまうネットワークケーブルは、自らの重みによる断線の危機など、事業継続に影響する深刻な事態を引き起こしかねないのです。今回は、当社がかつて直面した危機と、社員がジャングル化したネットワークの整備・管理を実現するために奮闘した約1000日にわたる取り組みを紹介します。



ISビル竣工(1992年)

当時の主力はメインフレーム。インターネットの普及もまだまだ。ケーブル配線が大問題になることは皆無でした。

### ? 危機の予感

#### 1997年 本格的なシステムのオープン化&オフィスのIT化がスタート! ～配線量が増加しはじめる

この頃からシステムの潮流はオープン系へ移行。データセンターにはサーバが次々と設置されていきました。一方、オフィスでもIT化にともない、パソコンの1人1台利用、グループウェアの全社展開などが一斉に進行。こうして、インターネットを含め、ネットワークを介したシステムが増え始めたものの、ネットワークケーブルの配線計画の重要性は業界全体でみても、まだそれほど認知されてはいませんでした。その結果、十分なケーブル配線計画のないままスピード最優先でさまざまなシステムが構築されていきました。

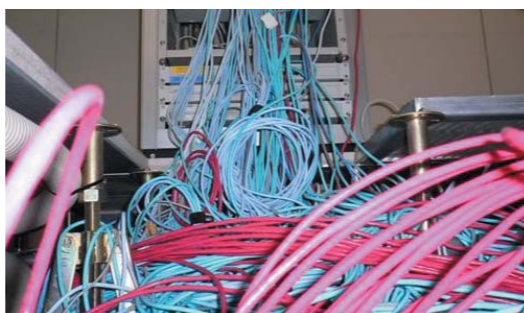


一見、整備されているように見えるデータセンターだが…

### ! 配線のジャングル化が進行

#### 1999年 松下電工IS設立 ～取引先の増加で配線量が激増!

独立にともない、松下電工(現パナソニック電工)や、松下電工グループ以外のお客さまに対するサービスを開始。ASP事業などを積極的に展開したことで、サーバなどハードの台数やケーブル本数はさらに増加していきました。いつか、ネットワーク配線はうっそうと生い茂り、根元も先も見えないジャングルようになっていったのです…。



ジャングル時代の配線の様子

#### なぜ危機は起こったか

##### CHECK ①

オープン化ばかりに目を取られ、気がつけばジャングル化

##### CHECK ②

管理の重要性に気づくのは、かなり進行してからのことも多い

##### CHECK ③

管理さえきちんとできれば、そうそう恐ろしい事態ではなかったはずが…。

### 💡 1000日間の奮闘スタート!

#### 2006年 ISビルにおける配線管理プロジェクトスタート ～ジャングルを切り拓け!

2006年、すでに竣工から10年以上が経過したISビルではいよいよ配線管理に着手。当時、管理対象としたのは、サーバ1500台、独立システム50台、その配線数は数万本。ケーブル全体の重さは数十トンになっていました。他社事例では、100台程度のネットワークでも検討から完了まで1年半かかっており、同じペースで進むとすれば、10年以上かかる一大プロジェクト。当然難航が予想されましたが…。

「とにかく時間がかったのは現状把握。ケーブルの先がどこにつながっているのかわからないほどのケーブルの量で、ラックの位置関係、MACアドレス\*の突き合わせなどに多くの時間を費やすことになりました。さらにこの調査により、『すでに使っていないのにつながっている』配線やサーバが山ほど出てきたのです。」

(IDCソリューション事業部 山本錦吾)

ITの成長と拡大の現場に同居していたのは、短い使命を終えたネットワークとシステムの墓場だったのです。後日談になりますが、不要なものの除去は、消費電力の削減にも大きな効果をもたらしたのです。

\*LANカードなどのネットワーク機器に割り当てられた固有の識別番号

#### 危機を回避したターニングポイント! 2003年 松下電工汐留ビルに統合配線システムを導入

2003年に竣工した松下電工汐留ビル(当時)には、新築ビルでは必須とされ始めた統合配線システムを導入。配線ルールに基づくネットワークケーブルの管理を開始しました。その結果、整備されたネットワーク配線を実現したばかりでなく、その維持にも成功!

#### 2007年 ようやく現状把握が完了 ～共同戦線を張る!

配線管理システムの導入に向け検討を開始。現状把握の過程で気づいたこと、それは、きちんと整備されたネットワーク配線を構築・維持していくには、システム構築にもネットワーク配線を念頭においた構成を取り入れておかなければならないこと。管理するには、ルールが必要なのです。そこでアプリチーム、サーバチームと共同でシステム構築にあたってのルールも決めていきました。

#### 2009年 配線管理システム導入 ～もうジャングルとは言わせない!

2009年9月、整備されたネットワークの維持をサポートする配線管理システムも完成。どんなに機能的に優れたシステムを作ったところで、実際に運用できず、配線の維持・管理ができなければ意味がないので、

管理のしやすさ、入力のしやすさなどにこだわり、かなり時間をかけて構築しました。今は、整備された状態をいかに保つか、未整備な部分をどこからどのように切り替えていくのが課題。ルール作りとルールに基づいた管理が非常に重要です。



配線管理システム

「現在、既存のネットワークからの切り替え分15%と新規システムのすべてが配線管理システムの管理下にあり、全体としては約40%まで進捗しています。切り替えにはお客さまのご理解をいただきながら、タイミングを見極めつつ、粘り強く進めています」

(IDC運用センター 奥川直利)



ジャングル時代の配線



現在のきれいになった配線

#### 整備した状態を維持するために

##### CHECK ①

アプリチーム、サーバチームとの協力体制を構築し、切り換えを推進

##### CHECK ②

定期的な仕様・ルール改訂と棚卸

##### CHECK ③

高度な機能よりも使いやすさを重視したシステムによる管理